

毎日6000文字書けば、インプット不足を痛感できてしまうという話

最近感じているのは初めてインプットの方を必要としている気がしているということです。基本的にみんなインプットが過剰になりがちですよ。僕も大体そうなります。この数年は意識的にアウトプット増やすように、それこそどんな自己啓発本やらビジネス書やらにもアウトプットしろってほぼ書いていますよね。で、そんなことは知ってるけどじゃあアウトプットってなんやねんと思うわけですが、そして結局なんやかんやあり、ブログという場を作ったことで、一応は好きなタイミングでアウトプットできる環境は生まれました。

そうはいつでも何の負荷もなく自動的に何かが出力されてくることはありません。ただこの負荷は別にストレスということではなくて、というか無理やりひねり出すということではなくて、何か外部の情報を受けて自分の中で何か反応して生まれてくるわけですね。という話は今回したかったわけじゃないので今したいことに移ります。

それはずばり、最近初めてインプットの方をもうちょい増やしたい思っているということです。これはほぼ初めてぐらいの体感なのでちょっと面白いですが、というのは最近毎日6000文字文章を書くようにしてるんですね。普段から適当にメモしたり、なんか思ったことあればその辺の紙にでも書いたりしてたのですが、そういうメモではなくてちゃんと人に見せられる形の文章を6000文字書くようにしてるんですね。じゃあちゃんとしてどういう水準なのかというのが次は出てくるんですが、これはガチガチにロジックを積み上げた文章というのではなくて、とりあえず初めから終わりまでの流れがあって、書きかけのまま次の話をしだしたり、何を言ってるのかわけわからない文章ではないというぐらいのものです。つまり語尾のすますとかはまあ一旦置いておいて、とにかく人が読める形です。

で、そうするとまた本題から外れるのですが、ここでじゃあメモと原稿の違いは何なのか、ということになるわけですね、何なのかと言っても別になんとかは分かるのですが、ここのグラデーションを考えると面白い気がしています。というのは、メモは完全に自分が見るための文章です。原稿は自分以外が見ることを考えて書いた文章です。とはいっても100%相手に意識があると、それは書いて面白くないわけですね。だから自分が書いて面白くて、もしくは言いたいことで、かつ読んだ人にも面白がってもらえるかなと思えるような辺りを攻めていきます。まああまり相手のことを考えすぎる必要もないんですが、とはいっても自分だけが見るとして書くものとは明確に違いは出てきますよね。というわけで、じゃあそのどこ辺りに意識を置いておくと気持ちよく進めていけるのか、というのが気になってるわけですね。

ってことを最近気になってるというのを思い出したのですが、それも関係ないので話を戻しまして、とにかく最近毎日6000文字書いてるわけですね。で、その中からブログは大体2500文字ぐらいなので、それを配信するという形になってることが多いです。で、前までは割と、元になるアイデアはメモとかを見て、そこからじっくり考えて話の流れを大体考えて書き始めたりしてたんですが、今は書いてる流れに任せてみるという形でやることが多いんですね。で、そうすると、昔の話か、一回考えたことあることが多くなってきます。その場で考えながら書いて割と面白いテー

マが出てきたり、自分はそうやって考えていたのか、という面白い発見もあるのですが、というかまたちょっと話がそれますが、だからこのスタイルで書いてみるのは面白いんですね。

先に考えたことを作業として書くんじゃなくて、今書いてるこの時間に新しい発見が出てきて、自分がどんなことを考えているのか何を欲しているのか、今何に関心があるのか、って言うのがバンバン出てきます。普段は先になんとか書きたいテーマがあってそこに沿って考えたりしてましたが、そうすると枝分かれしそうなルートをつぶしていきます。でもゆらぎとかブリコラージュの下りでも話したことある気がします、そのふくらみの部分が結局面白い部分なのです。最初の想定に一直線で向かって言っても予定調和すぎるんですね。

そんなわけで毎日決まった文字数文化いていって言うのは割と面白いので、ぜひやってみてくださいということでもあるのですが、また話を戻しまして、そうです、そうやって新しい発見もあるのですが、でも全部昔の体験とか記憶とかエピソードから生まれてくるものも多いんですね。というかそれこそ誰かと話してるような感覚なので、そういえば、昔こんなことがあって～とか、最近こんなこと考えて～、こういうの見て～ってなるわけです。読書感想文みたいに、じっくり考えて出来上がる文章ではないわけです。そうすると、毎日これやっていると、なんか一生昔の話してんかってちょっと思ってきたんですね。新しい何かが足りてないような気がちょっとしてきたのです。

というわけで研究の時間を増やそうと画策してます。気になってるテーマはいくつかあるのでそれをコツコツやっついていこうかと。そもそもこれはやりだすと止まらないので一日中やってしまうのですが、そうすると出力の部分が限りなくゼロになってしまうので、やりすぎないように控えてた部分もあるんですが、毎日書くようにしてみるとアウトプットの部分はあっさり確保できるので、もうちょいじっくり本とか論文を読んで考える時間を増やしていこうかという感じですね。

で、こうやって毎日書いてると面白いのは、入り口はその時の気分でいろんな話題からスタートするんですが、途中でその時興味のある話題に合流していくんですね。それは3, 4日どんな話からスタートしても気づけばまたこの話題になってますやんって感じです。で、そうなるそれが気になってるんか、ということでそれをちょっと調べる時間を増やしたりするわけですね。そうすると非常に満足できるというわけでございます。自分が考えてることとか今何を知りたいとかやりたいとか意外と出てくるんですね。

というのはずっと手を動かし続けるわけなので、別のこと考えてる余裕がないんですね。例えば即興で歌を作ってみたりすると、もうメロディーは動き続けているので、最初に出てきた言葉を発していくしかなかったりします。だから普段じっくり考えていたら表現されないようなことがもう出てきてしまうわけですね。というのは文章でも多分あって、というかそのまま感じていて、でもそれが面白いということなのです。でも、あくまでもこれは人が見る文章を書いている、という意識だけはちゃんと持ってます。だから、単純なフリーライティングというのとは違うんですね。

フリーライティングは、自分の頭に浮かんでくるままにひたすら書きだしていったって、例えば発信をしてる人ならそこから次のネタを見つけてきたり、アイデアを出したりするわけです。でもこれは完全に自分のための物です。時間とかを決めて、もう支離滅裂でいいからとにかく浮かんできたものを書き出していったって、後からそれを整理して一つの文章にするとか、今後やっていきたいこととして形にしていくとか、そういうものです。でも僕はそれを人が見るものという意識を持ってやることに意味があると思います。というかフリーライティングも別にそれはそれでいいんですが、それとは別でそのまま公開するというつもりでやってみると新しい発見があって面白いと思います。

というわけで、何の話をしてるのか分からなくなってきましたが、そうです、そうやってひたすら浮かんできたものを素直に出していく、ということをした時に、新たにエピソードや知識を蓄えておく面白い感じがしてくるのです。それは例えば何か学んだことを表現しようと思うと、それはよくある話ですが、知ってるのと分かるのは違うみたいな話がありますよね。なんとなく本を読んで知ってもそれを喋ってみようとしたときに全然出てこない。それは知ってるだけで分かってるわけではないですよって言われるわけです。

だから例えば、ブログなら何か本を読んだり経験したことがあって、それを言いたいとか、記事にしようと思って考えたときに全然うまいこと書けないわけです。こっちの中では言いたい感じはあるんですが、実際の書く能力がそれに追いついてなくて、だから目の前に書き連ねられた文字の集まりを見て、全然あかんやんって思って、もっとちゃんと書こうとして、でもその能力がないからどンドンしんどくなっていきます。でもですね、このとりあえず書いていくというスタイルを採用すると、手を止めていちいち考えてられませんが、とにかく頭に浮かんできたものだけを出していきます。

ってなると、最近会ったこととか調べたことを自分はそういう形で認識してるのか、ということが分かったりするんですね。逆に言うとかんだけしか分かってないのか、とも思います。でもそこに出てくる言葉は一番自然なのです。最も滑らかな形です。流れてるんですね。だからそれでいいやんということなんですね。というかそれってこっちであらかじめ想定したことをその通りに表現できてないから萎えてるわけですよ。それはそもそもその想定があるのかという話なのです。人に期待するから、違う動きをされたときに落ち込むという話もありますよね。

この人はこれぐらいやってくれるはず、こんな場面ではこういう動きをしてくれるはずって思ってるからそんなことになります。文章についてもそうですよね。自分で、自分はこれぐらいかけると思ってるからというかこれぐらいのものを書きたいと思ってるから実際出てきたものとのギャップで打ちのめされかけるのです。ということ最近思ってます。最初から想定しなければ今出てきた滑らかなぬるぬるの文章に満足できます。というか結果物どうこうより、書いてる今が面白いわけです。新たな発見が今ここで生まれてたりします。こんな感じで書いてる間にもいくつかの分岐が僕の頭の中ではあったのですが、その中から適当に選んでこんな感じになってます。で、それはもう忘れたのもいくつかあったんですが、この文章を遡れば上の方で書くのをやめた形跡があります。そうすると、それは今の優先順位では脱落しただけでまた明日考えてみると面白い話題かもしれません。というわけで、次の考えるネタや書きたいことの現れだったりします。

ということで次にやりたいことが出てくるので、うれしいです。だから今書いてることが嬉しくてそれが結果として誰かが読めるものとして出来上がってもいます。なので僕自身の循環プラス、外部との循環につながるものが出来上がっているわけです。というわけで、僕は情報発信は止めないことが一番大事だと思っていますが、その観点から考えたときに、毎日決まった量を浮かんできたままその瞬間書きたいことを書いていく、というのはかなり効果的な気がしています。村上春樹は毎日4000文字小説を書いているらしいんですね。あと最近坂口恭平という人を見てたのですが、その人も毎日10枚原稿を書くと言ってたので大体4000文字ぐらいです、もっと書いてるかもしれませんが。なので僕はとりあえず6000文字書いていくことにしたのですが、おもったよりいけてます。というか面白いです。

もし人に見せる形でやるのがハードル高ければさっき出てきたフリーライティングとこの両方を何文字かずつ割り振ってやってみると面白いと思います。

書くのも一つのテーマを掘り下げるのも流れに敏感になるとスムーズに行く

今、原稿を書こうと思って、流れに意識を向けてみた、そして、少し前に書いた原稿を遡ってみました。そしたら、「流れ」について書いてることが多いなと思ったわけです。というか、今頭に流れていることを書くと気持ちいいという話をしてたんです。僕は何か気になったことがあるとそのテーマに絞って毎日調べれば良いと思ってたんですが、そうすると今日、そのテーマから少し外れた場合、いや、少しどころか全く違うテーマが気になったときに、それを邪魔だと思ってしまうようになっていました。というのは、せっかく毎日今日から数週間それについて掘り下げていきたいのに、気持ちが乗らないなと思ってたんです。そうです、結局気持ちが乗らないのは、今他に知りたいことがあるからなんです。

僕は、昨日これを調べていくと決めたのに、なんで今日気持ちが乗ってこないのかと、例えば、その日の終わりに、今日はこの辺まで調べたから、明日はこの本を読むとか、この論文を読んでいくとか、次の日の自分のためにメモるようにしていたのですが、というかそれは別に今もしているのですが、でもじゃあその日を迎えたときに全然気持ちが乗ってこないことがあったんですね。あったというよりはたいていそうなるんです。でも、まずそうなったときに、これは自分は気持ちが乗ってないんだ、ということにも気づけないわけです。あれ、なんかやりたいと思わないな。という感じです。というか、昨日決めたから、今日はその続きとしてこれをやろう、と思って本を読んだりネットを検索してみたりするのですが、どうも集中できません。

で、それにも気づいてませんので、全然捗ってないんですが、でもやるって決めていて、今日のメモにもこれをやるって書いてるのでとりあえずやっていくんですね。でも、本当はもうすでに今日はこれを調べたいと思ってないんです。そうだったんです。だから、集中できないってことです。つまり、昨日の興味はもうその時点で一区切りついていて、今日の自分はまた別の何かが気になってるんです。でもそれに気づいてなかったんですね。だから「あれなんか全然集中できないぞ」となってきます。でもやるって決めてるのでやろうとします。そうすると、これは、自主的に能動的にやってるつもりが、昨日の自分の命令に従ってるだけなのです。つまり、全く今の自分の気分を考えていないってことです。

僕は感覚と行動を一致させていくところに気持ちよさ心地よさ面白さ楽しさがあると思ってますが、それって自分の感覚に従ってるようできて、昨日の自分の記憶に沿って動いてるだけなんです。だからそれは面白くないに決まってるんですね。だからそうじゃなくて、昨日は昨日で一区切りとして、今日、今、この瞬間に最も知りたいことを調べるというのがすべてなんです。だから楽しいんですね。で、それを認めてあげる必要があるわけです。つまり、今あなたは何を知りたいんですか、ということに気にしてあげる必要があります。そしてもし本当に今知りたいこと掘り下げたいことなら、とんでもないエネルギーが乗るので、どんどん勝手に調べていきます本も読んでいきます、いつの間にかめっちゃ時間たってた、みたいなことになってきます。それが、たぶんチクセントミハイが言うところのフロー体験ってことなんですね。

つまり、今の自分の流れにめっちゃめっちゃ敏感に意識を向けていくんです。そしてそれに任せてあげるってことです。じゃあでも、そんなことするといつまでたっても調べようと思ってたことがやり尽くせないじゃないか、と思われるかもしれないんですが、昨日と今日で興味が変わろうとも、意外ともう少し長期で見れば、人間の関心毎は変わらないんです。だから、三日後になればそれが気になる周期がきたりします。毎日ひたすら今知りたいことを調べまくって、記録しておけば、後から共通する部分をピックアップする形で統合できます。つまり最も注意を払うべきは、今自分が何に注目してるのか、どっちに向きたいのか何をしたいのか、ということに丁寧にくみ取っていくことなんです。

で、これは今研究というか、何かを探求していくことに関しての話ですが、文章を書くのも全く同じなんですね。僕はよくメモをするのですが、何か文章を書こうと思うと、そのメモを見て書いたりしていました。例えばブログなら、普段生活する中で、これについて書けそうって思ったらちよっと一行二行メモしておくわけです。で、そろそろ書こうかなというタイミングでメモ帳を見返し、その時書きたいものを選んで膨らませながら書いていってました。でも、これもその時はそれが自分にとってはやりやすいと思ってたんですが、どうも、捗らない時があるのです。それは、これについて書きたいと思ってたはずなのに、後から見返した時に思ったより書きたい感じが出てこないのです。でも、それにも敏感になれていませんので、とりあえずそれで書いてみようと思います。でも全然書けないのです。でもそれについては書けると思ってるので、というのは何かしらの体験や情報のまとまりを自分は蓄えているという判断をそのメモをした時は下しているの、今の自分はそれについて一つ記事を書けると思っています。でもそれは、書けるというのは、「無理やり書けば」書ける、ということなんですね。

それよりも優先されるべきは、今頭に何が流れているか、ということです。つまり、メモには賞味期限があって、ある時を過ぎるともうそれでは書きたくなくなるのだと思っていたのですが、それでもまだ甘かったんです。つまり、メモしたことはそのメモしたタイミングにおいてのみ、書きたいし書けることなんです。だから後から見ても、そのときの頭の流れ渦巻く何かぼんやりとした外に出てきたいと感じている、または自分との対話の中で羅列された言葉の集まり、というのは、その瞬間を逃せばもう流れていません。ということはそれを自然な形で排出できないのです。じゃあそれなのに書いてみようとするとうなるのでしょうか。何とか無理やりだしてくるしかありません。たしかあの時はこんなことを思ってたはずで、こんな風を書いてまずはこれから始めて、こんな流れで、、、というのは、これはもう別に今流れてないことを、過去の記憶を頼りに書いているという状況です。

これって、ただ調べたことをそのまままとめて書く、みたいなことと同じです。もう完全に過去に自分の中にあった何の動きもない塊を必死で形を整えて、はい完成しました、という感じです。でもそれっておもんないのです。知ってることを書いてるのと同じです。そうじゃなくて今頭に流れていることがそのまま出てくるから面白いんですね。そうすれば、自分は今こんなことを考えているのか、お、今めっちゃ面白い話になってるとぞいう感じで、書いてる自分自体が生まれてくる文章を楽しみながら書けるんです。だからめっちゃ楽しいわけです。だから一生できるはずですよ。

で、そうやって、つまり、今の自分の中に流れているものは何なのか、ということに注意を払ってそれをくみ取ってそれを素直に輩出する、というのが非常に大事なことです。いや、大事というかそれが面白いってことなんだと思います。そして、今日も僕は何かしら調べようと思って、でも別に知りたいことが見つかってませんでした。でも、この話をする前に、この数日書いた文章を見返してみると、あ、ここから冒頭に繋がるわけですが、見返してみると、こういった感じで流れの話をしてるのが多かったんですね。だから、そうすると、じゃあ流れに関する部分だけを集めると、もう一つ大きなゲシュタルトになるな、ということで、そんな流れの話をしようと思ったんです。

でもそのときに、流れについて新たにまとめる形で今から書いていこうと思ったんですが、そのときに、自由と制限について少し気になったんですね。つまり、気になったことを調べる、という話で言えば、毎日同じことを探求していくのか、今日気になったことにそれでもいいのか、という話ですね。ここまでしてきたような話です。それって自由と制限の話ですね。で、ここにもう少し面白いことが眠っているような気がして、それについて考えようと思いました。でも、それは流れなかったんです。というのは、自由と制限について考えようとしたときに何も出てこなかったんですね。というのは、過去にそんな話をしてるような文献が頭に入ってません。だから、この辺をもう少し掘り下げてから書いてみたいなと思いました。じゃあ、もうその瞬間にそれを知りたい、という流れが生まれてるってことです。つまり、僕は今日、自由と制限について、自己組織化の観点から調べる

んです。自己組織化には、決定論と非決定論という文脈が絡んできます、で、決定論というのは一つ決めると未来が予測できるという考え方です。非決定論はそうではなくて、確率やランダム性が入ってきますよね、という考え方です。これってまさに自由と制限の問題なんです。ということで、自己組織化について調べる中で自由と制限についての捉え方を吸収して、そうすればそれらについて書きたいことが出てくるだろうと思い、じゃあ今自分に流れてるのは、それらを知りたいってことなんです。というわけで、僕は今から自己組織化に関して調べてみるわけです。それでは！

最後に

ということで、今回は頭の中にあるものをひたすら排出していく、というテーマでお送りしました。そして実際にそんな感じで書いてみました。このスタイルというか、今の流れに注意すればいくらでも言葉が出てくる、という感覚は最近の中では個人的にかなりでかい発見だったのでひとまず共有しておこうということでございました。書きたいことってどうやって出てくるのか、とか思ってた時もあったのですが、でもそういう考えを電車でスマホにメモしたりしていたわけです。で、それそのものが今書きたいことですよ、って話なのです。それを無視してそれ以外のところで何か書くことを見つけようとするからしんどいわけですよ。だから今の自分に流れているものをキャッチしようという意識があればいいんですね。で、そうなったときに、何かを探求していこう、というのも別に一つに決めたからってそれを毎日ひたすらやり続けなければならないってことでもないわけですね。僕で言うと、人生ちゃんと遊ぶということを一応テーマとしているのですが、そうするとなんか無意識のうちに毎日「遊び」とか「遊び心」みたいなことについて掘り下げていかないとって感じになることも最初の方はありまして。でもそう思うと全然面白くないわけですね。

で、そういえば、大学院にいたときに、自分の研究の範囲からちょっと外れたおもしろそうなテーマが見つかったときのことを思い出しました。そのときはタオ自然学という現代物理と東洋思想に関連性があるかも、みたいなことが書いてる本をたまたま読んで、僕はその少し前に全然関係ないところで老荘思想に興味を持ってまして、大学院では素粒子系をやったので、もうドンピシャな内容なわけですね。別に人に言われるでも勧められるでもなく、自分の感覚にばちっとはまったこの2つのテーマに、まさかのつながりがあるかもしれない。だから「マジか！」ってなりますよねwで、次はそっちにめっちゃ興味が出てくるんですが、一応修士課程の身で研究室に所属していて、最後は修士論文を書かないと卒業できないわけなので、そんな東洋思想とか気にしてる場合ではないのです。でも僕はそっちがめっちゃめっちゃ気になってるわけです。なので、そっちが頭の中でむくむくと育てて行くのを押さえつけながら物理の方にエネルギーを注いでいってたんですね。でも研究室で残って勉強したりとかして、休憩がてら図書館をぶらぶらしようと思うと、大体文系ゾーンに行ってしまうわけです。しかもノーベル賞を取った湯川秀樹という物理学者は、子供の時に漢文の素読をしていたかなんかで、荘子の思想が結構入ってたみたいなんですね。で、そこからの着想で、のちにノーベル賞につながる中間子というアイデアが浮かんだ、という話を聞いて、ますますそっちの方が気になっていくわけです。まあ結局はもちろん専門の方に集中することになるんですが、でもこれって完全に流れに反してるんですね。本来はそこを解放して、流りたいように流れさせて、そっちから降りてくる行動として、今調べたいことが決まってくる、というのが自然なのです。

というわけで、また何の話か分からなくなってきましたが、そうすると次は、こうやって書かれた文章がいかに作品となるのか、ということに興味が出てくるんですね。つまり、本というのはいわば一つの作品なわけですが、でもこれは最近ブログにも書いたように、本の形式というのは結構自由なんですね。じゃあこうやって流れのままに書かれた文章から作品に向かう過程はどうなるのか、というのが気になってきます。もっと直接的に言えば、作品とは何か、ということですね。人は何をもって作品を作品として認識するのか、ということです。で、そうすると今度はじゃあ完成

とは何か、みたいなことも気になってきます。作品を、文章を書くことにおける完成またはゴールと見たときに、その完成に向かって言葉を並べていくことにどんな意味があるのか、というか、僕たちの人生や生活においてどれくらい重要視すべき時間なのか、という問題です。もうちょっと僕がよく言うような文脈で言えば、書くことによって生まれた何かにエネルギーが宿っていて、それが人に届いて行く形で循環していく、と考えたときに、その何かが一般的な意味での完成品であることにどれくらい価値があるのか、みたいなことです。つまり、何か文章によるコンテンツが出来上がったとして、それは何らかの主張が含まれているもの、または誰かの問題を解決する話が展開されているものだったとき、まずそれは完成品なわけですね。誰かの問題を解決する、という目的があって、そのために考えて文章を書いて、これならその目的を達成できるだろう、ということで人に提供されるのだから、書き手にとっては完成した、という状態ですよ。でもその完成品を作るために考えたことがあるはずですよ。どういう風に書こうかなとか、自分はこんな時にこんな風にしてたな、いや、それは別に書かなくていいか、とか。いろんなことを考えているはず。それこそメモしたりもするでしょう。

で、そこでなんです。それって今その人の中で流れてることですよ。本人にとっては完成品のための一人作戦会議の時間かもしれませんが、それってその瞬間に流れてることなんです。だから今回見てきた話で言えば、それをそのままメモではなく原稿として排出することも可能なんですよ。そうすると、それは完成品に向かう過程だったはずが、もしかすると、それも一つのコンテンツと言えるかもしれないわけです。それは書いた本人からすれば、まだ完成してないわけですから、中途半端なものかもしれませんが、そんな草稿や断片が本として出版されていることもあるわけです。レオナルド・ダ・ヴィンチの『絵画論』とかベンヤミンの『パサージュ論』とかですかね。そうするとこれは本人にとっては未完成とを感じるが作品として成り立っていると言えるわけです。じゃあもうメモとか原稿とか完成とか未完成とか作品とか日記とか草稿ってどこまで区別されるべきものなのか、そして書き手としては何を指せばいいのか、ということになってくると思うんですね。というのを最近感じたので、これはまた考えがまとまったら共有してまいります。それでいうと、しつこいんですがw、これも考えがまとまってからしか共有されるべきではないのか、みたいな話になるわけですね。もっと言えば、もう今回この「最後に」のパートで、考えがまとまってないのに、考えてる途中の話をしまくってるわけです。まあ最近そんなことを考えているので、何かこの辺に関していい考えがあればぜひLINEしてくださいwもちろん他の話でも全然いいんですけども。

それではここまでお読みいただきありがとうございました！